

■児童・生徒の学力の状況

「全国学力・学習状況調査」の結果から、「(22) 学校が休みの日に、1日どれくらい勉強をしますか」において1時間以上の回答が16.6ポイント都平均を上回っている。また、「(20) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」において肯定的な解答が5.6ポイント都平均を上回っている。このことから生徒には、ある程度学習習慣や学習に向かう意欲が身に付いていると考えられる。今後は、教科書の使い方や家庭学習の質の向上を図る必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 教科書を読み文章や図表等から読み取ったことをもとに、わかったことや考えたことを相手に伝える力（OUTPUT）を育てること。
- 視覚的・体験的に知識・技能の習得ができるようにchromebookや電子黒板などのICT機器を活用すること。
- 本時のめあてが達成できたか振り返る時間（話す・書く）を授業内に十分確保すること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 教科書の活用により基礎的読解力を向上させることや、学んだことをOUTPUTできる表現力を向上させることを通じて、「読み解く力」を育成する。
- 「板橋区授業スタンダード」を徹底する中で、「ふりかえり」の時間の確保と自分の言葉で学んだことを表現させることを重視する。
- ICT機器を有効活用し、教師が教えすぎない、教師が話しすぎない授業づくりを通して、主体的・対話的で深い学びを実践する。
- 総合的な学習の時間において、キャリア学習、宿泊・校外学習、地域学習を軸に、自らの考えを深く掘り下げる授業を通して探究学習を進めていく。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○授業のめあてを生徒主体の表現で設定し、ふりかえりの時間を十分に確保する。 ○学びに向かう意欲の適正な評価の工夫を実践する。	○教科書を主体として生徒の学力向上、特にOUTPUTによる表現力を高める。 ○授業のふりかえりでは、「書くこと」「話すこと」を中心に、生徒主体の表現活動を充実させる。	○キャリア学習、宿泊・校外学習、地域学習を軸とする探究学習を推進する。 ○単元配列表を意識し、各教科の単元の関連性などを理解する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○教科書等を活用し、基礎的読解力を向上させる。（教科書本文の音読など） ○教科書等の文章や図表等から読み取ったことをもとに、わかったことや考えたことを相手に伝える機会を設定する。 ○授業のめあては、生徒の表現活動を意識し、生徒主体の表現で設定する。	○総合的な学習の時間を中心とし、単元配列表をもとに各教科の学習内容を相互の関係で捉え、学習の到達状況に応じた評価を実践する。 ○校内研修等を利用し、教科横断的な視点で各教科の相互の関係を理解できるような場を設定する。	○ICT機器を活用し、学習課題への興味・関心を高める。（授業の導入時の利用など） ○オクリンクやムーブノート等のアプリを効果的に活用し、互いに学び合う学習環境を向上させる。（意見交流など） ○ICT研修を定期的実施し、学校全体でICT機器を用いた授業力の向上を図る。